

## 平成 30 年度第 1 回逗子市文化振興基本計画策定・推進会議 議事録

- 日時 平成 30 年 5 月 25 日（金）午後 3 時～午後 5 時 35 分
- 場所 市役所第 4 会議室
- 出席者 （敬称略、順不同）  
（会長）渡邊忠貴、山口敏三、長坂祐司、森川いつみ、小谷洋一、田中肇、  
及川佳寿美、七海耕一、藤城由季、黒川恭祐、利根川博
- 欠席者 森谷紀子
- 事務局 文化スポーツ課：阿万野課長、土屋係長、鬼原主事、森主事
- 会議の公開・非公開 公開
- 傍聴人の有無 0 人
- 記録 森主事 平成 30 年 5 月 25 日作成

### ■議題

- （1）平成 29 年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）に関する意見聴取
- （2）総合計画実施計画（取り組みの方向）、基幹計画「共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン」及び個別計画「逗子市文化振興基本計画」の見直しについて
- （3）「（仮称）逗子アーカイブス」の推進について
- （4）その他

### ■事前配付資料

- ・資料 1 平成 29 年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）について
- ・資料 2 評価ランクの基準
- ・資料 3 逗子市文化振興基本計画 p30、p45～p50
- ・参考資料 1 平成 29 年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）に関する意見聴取について
- ・参考資料 2 逗子アートフェスティバル 2017 事業報告書
- ・参考資料 3 平成 29 年度アウトリーチ実施状況
- ・参考資料 4 逗子文化プラザホール 保守管理業務 長期修繕計画
- ・参考資料 5 平成 28 年度逗子市文化振興基本計画進捗管理票

### ■当日配付資料

- ・会議次第
- ・名簿
- ・参考資料 6 逗子アートフェスティバル 2017 ガイドブック
- ・参考資料 7 逗子アートフェスティバル実行委員会 市長への提言（一部抜粋）

## ■議事

### 1 開 会

#### 【配付資料の確認】

#### 【出欠の確認】

- ・森谷副会長 欠席。

#### 【新メンバー紹介】

#### <事務局>

平成 30 年度より、メンバーの変更があったので、報告する。

- ・特定非営利活動法人逗子まちなかアカデミー 小谷洋一氏。
- ・特定非営利活動法人逗子の文化をつなぎ広め深める会 及川佳寿美氏。
- ・逗子市青少年指導員連絡協議会 藤城由季氏。
- ・逗子市文化協会 田中肇氏。

- ・芳垣市民協働部長 挨拶

#### <事務局>

本日の議題について、1点目は「平成 29 年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）」について、所管課の自己評価に対して、皆さまの意見をいただく。

2点目は、総合計画実施計画における取り組みの方向について、基幹計画「共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン」、個別計画「逗子市文化振興基本計画」の見直しについて、皆さまの意見をいただく。

3点目は「(仮称) 逗子アーカイブス」の推進について、昨年度第2回の逗子市文化振興基本計画策定・推進会議（以下「推進会議」という。）において、逗子フォト事業の担当課から説明したが、その後の状況について事務局から報告する。

また、その他として、4月14日（土）に開催された「まちづくりネットワーク会議」について、参加した山口メンバー及び長坂メンバーから状況の報告をお願いする。

ここからの進行、議長は会長をお願いする。

## 2 議 題

(1) 平成 29 年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）に関する意見聴取

### <会長>

議題 1 の「平成 29 年度逗子市文化振興基本計画進捗管理（自己評価）に関する意見聴取」について、資料 1 にある逗子市文化振興基本計画の事業進行管理表の「2017 年度 進捗状況」以下が、所管課の自己評価である。「2018（平成 30）年度の目標に対する評価」の総合評価は、(a) 順調である、(b) 概ね順調であるとみなせる、(c) 順調であるとはみなせない、の 3 種類であり、例えば 1 枚目の文化振興推進事業（逗子アートフェスティバルの充実）では (a) 順調であると評価している。皆さまには、所管課の自己評価の妥当性や、事業に対して思うこと等、フリーにご意見をいただきたい。

所管課の自己評価については、事務局から説明をお願いする。評価する事業は、逗子アートフェスティバル（以下「ZAF」という。）、アウトリーチ活動、逗子文化プラザホール（以下「ホール」という。）の維持管理の 3 つである。そして最後に、個別計画進行管理総括表の評価もお願いする。

### <事務局>

資料 1 及び参考資料 2、6 をご覧いただきたい。

（資料 1 事業進行管理表（文化振興推進事業（逗子アートフェスティバルの充実））について説明。

### <会長>

ZAF について、意見・質問等はあるか。

ZAF2017 は、3 年に 1 度のトリエンナーレ年として規模を拡大して開催した。柴田雄一郎氏を総合プロデューサー兼ディレクターとして招へいし、事業予算 680 万円という大きな事業であった。

10 月 7 日（土）の「MIRRORBOWLER」でスタートしたが、10 月は毎週末雨に降られ、実施できない企画がいくつもあった。10 月 21 日（土）の「池子の森の音楽祭」も雨天の中、何とか実施した。一方で、11 月は天気にも恵まれ、市民企画等は順調に実施できた。トリエンナーレ企画として様々な企画を実施した中で、特に「705030 写真展」は印象に残っている。

ZAF の目標の一つとして、逗子のアーティストに発信する場を提供して、応援することがあるが、この目標は達成できたと思う。過去には、ソプラノ歌手の山田姉妹も、ZAF を起点にして有名になった。

私は 1 月に委員長を引退し、新しい組織体に生まれ変わりつつある。新 ZAF は、現場の人たちがリーダーシップを執る形で、実行委員会は後ろに控えるような組織になっていく。

また、今年は市からの負担金が一切無く、大変である。自らの手で全て賄う必要がある。

広報について、若手の実行委員会メンバーからは Facebook 等の SNS を利用した方が良いとの意見が出ているが、逗子は高齢者が 30%以上と大変多いため、紙媒体がコミュニケーションツールである。そのため、広報ずしの紙面は何とか残すようお願いした。

新 ZAF になっても、事務局は最重要である。事務局機能は行政にあってほしいとのことで、引き続き事務局は文化スポーツ課となり、心強いサポートである。

2月上旬に、今後の ZAF について市長に提言した。内容は、参考資料 7 のとおりである。ヨーロッパでもアメリカでも、文化は必ず行政を中心においている。心の糧である文化を、行政は切り捨てないでほしいとのことだけは訴えてきた。

事業進行管理表にあるように、数値目標は達成しており、予定どおり進捗していて順調であると言える。しかし、本当にそうであるか、もう少しアナログ的に皆さまが思っていることを吐露してもらいたい。

#### <山口メンバー>

計画上はまだ ZAF が続いていくが、平成 30 年度から新体制になると聞いた。進捗等の評価は、引き続きこのメンバーがチェックして良いのか。

#### <事務局>

ZAF は、総合計画のリーディング事業であるので、引き続き皆さまから意見を伺う。

実行委員会はメンバーが変更し縮小したが、傘下に逗子アートネットワーク (ZAN) という自立的な市民組織が立ち上がり、地元のアーティストや市民が ZAF2018 の企画や運営について検討を重ねている。日程や場所等はこれから決定されていくが、「池子の森の音楽祭」と「MIRRORBOWLER」は実施する方向である。

#### <山口メンバー>

現在は ZAF を取り巻く状況が過渡期にあると思われるが、個別の目標については申し分なく達成しており、新体制でも十分に機能できるだろう。ZAF の運営体制として、順調に進んできたことは誇りに思っているのではないかと思う。

#### <会長>

平成 30 年度については、事業進行管理表の「個別事情」に負担金がないことが記入できると思うが、平成 29 年度は市からの負担金があるので、記入する必要はない。

「個別事情」は、どのように考えれば良いのか。

#### <事務局>

特記すべき社会状況の変化があれば記入することもあるが、現時点で緊急財政対策に関することは記入しないことになっている。

#### <長坂メンバー>

ZAF2017 は楽しかった。亀岡八幡宮で実施された「MIRRORBOWLER」は、カオスを感じた。「池子の森の音楽祭」は、私自身が池子に住んでおり、米軍基地を意識している生活環境の中で、大変意義深いイベントだった。

ZAF2017 は、まず開催することに意義があった。その中でも、「池子の森の音楽祭」は大

切なイベントであり、市民と米海軍家族住宅に住む人たちがコラボレーションしていた。逗子会館の「705030 写真展」や「in the rain」も素敵な企画であり、その後に行った「NIGHT WAVE」もきれいだった。ただし、逗子海岸でのイベントを、もっと海岸を取り巻く地域の人へ周知する必要があったのではないかと感じた。せっかくのイベントであるので、逗子市商工会等と協力して、情報を拡散した方が良いと感じた。

素晴らしい地域色で溢れているのが ZAF である。文化振興推進事業（逗子アートフェスティバルの充実）としては、ZAF2017 はとても素晴らしいと感じた。平成 25 年のプレから始まり、私が市民企画に参加した年も含め、とても盛り上がっていると感じている。

#### <森川メンバー>

推進会議には、ZAF 実行委員会の推薦メンバーとしても参加しているので、感想とともに申し上げる。

平成 25 年度から実行委員と市民企画者の両面で関わってきた。ZAF2017 はトリエンナーレ年として「池子の森の音楽祭」が実現する等、実行委員としても市民企画者としても、わくわくした企画が大変多かった。また、SNS での発信に力を入れ、市外からの来場者も多かった。

ローカルアーティストだけに留まらず、各方面で活躍している市内在住のアーティスト等、新たな発見がたくさんあった。また、新規の市民企画も増えて良かった。市民への周知については、年々浸透していると感じているが、今後の継続が大切だと思う。

葉山芸術祭は、葉山町からの助成はなく、自主的な道を歩んでいる。ZAF に関しても、助成金に頼らず、色々工夫しながら継続することが重要である。助成金が無いのは残念であるが、自立に向けた良い機会と捉えて、今後も頑張ってもらいたいと思っている。

#### <会長>

お金が無いのは辛いことであるが、本来のイベント運営は手弁当が本質であり、原点に戻ったと言えるのではないかと感じた。

#### <田中メンバー>

逗子市文化協会（以下「文化協会」という。）は、平成 29 年度まで ZAF と一緒に開催していた。平成 30 年度からは独立して、逗子市文化祭を開催する。

各イベントのアンケートで、「何を見て来場したのか」という質問の回答は、広報ずしが多い。SNS はきっかけにはなるが、最後は広報ずしやチラシで日程や時間等を確認して、イベントに来るのではないかと感じた。逗子では、紙媒体が強いと感じている。

#### <及川メンバー>

逗子の文化をつなぎ広め深める会で ZAF に参加していたが、ZAF が開催していることを知らない人が結構いた。「アートフェスティバルという名前が若者向けではないか」、「パンフレットの表紙が怖い」との声もあった。高齢者に有効な紙媒体であれば、親しみやすい表紙でも良かったかと思う。

#### <藤城メンバー>

東逗子に住んでいるが、東逗子エリアで開催される企画数は少なく、積極的に参加しないと ZAF に触れることは無かった。ZAF2017 のパンフレットはインパクトが強かったが、前回のトリエンナーレ (ZAF2014) のパンフレットは記憶に残っていない。

また、10 代～20 代の若者は興味を持っていない。ZAF の対象は、どの年代であるのか。現在の若者は SNS の中でも Instagram を多用している。また、逗子海岸映画祭では若者向けの芸能人を呼び込んでいる。若い世代を呼び込むためには、手法を考える必要がある。

#### <会長>

逗子海岸映画祭も ZAF に入っていた。対象をしっかりと定めて、強い集客力を持っていると感じている。逗子海岸映画祭の主催者である長島源氏は、ZAN の発起人として動いているので、斬新なアイデアが出てくると思う。

#### <小谷メンバー>

定年退職後に逗子に住み始めた。逗子は自然が豊かで海岸もあり、鎌倉と比較して閉鎖的な街であると感じている。県外の人には、オープンでない感じを受ける。

逗子まちなかアカデミーでは、逗子検定を作成した。人口が減少すると市民税の収入も減る中で、もっと逗子を PR しないと人は訪れない。逗子検定を通じて、シティプロモーションにつながり、ひいては東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の時に来られる外国人を案内できる案内人を育てることができたらと考えている。

ZAF は様々な企画があって素晴らしいが、企画数が多すぎて分かりづらい。シティプロモーションに関わることだが、「逗子海岸流鏑馬」や「NIGHT WAVE」等、市民だけでなく市外の人に逗子の素晴らしさを発信できるような ZAF になれば良い。

#### <会長>

確かに ZAF は雑多である。ZAF の方向性が定まるのは、もう少し時間が掛かるだろう。

#### <七海メンバー>

継続は力なり。参加者の交流は、年々高まっていると感じる。今後は、SNS を積極的に使う人を前面に出した方が良いのではないかと。逗子で文化活動をする人に入ってもらおう工夫すれば、市民同士の交流が広がるのではないかとと思う。

#### <会長>

若者が来てくれるというのは、市としても大きなテーマだと思う。芸術活動を通じて、若者がインバウンドし、定住するというのはいつの良い方向である。

新体制のメンバーは、SNS を積極的に使う世代である。

#### <会長>

メンバーの評価について、事務局の提案どおり「(a) 順調である」でよろしいか。

#### 【異議なし】

#### <事務局>

資料1及び参考資料3をご覧いただきたい。

(資料1 事業進行管理表(アウトリーチ活動推進事業)について説明。)

#### <会長>

「(a) 順調である」という評価であるが、質問・意見等はあるか。

アウトリーチ活動(以下「アウトリーチ」という。)に関連しているメンバーはいるか。

#### <長坂メンバー>

アウトリーチはホールが主体である。ホールの担当者から、パントマイムのアウトリーチに影響された子どもたちの姿がかわいかったと聞いた。アウトリーチは、市民にとって楽しいものであるといった迫力のようなものを聞いたことがある。

事業進行管理表に記載されている事業費について、ZAFのように平成30年度は事務局のサポートのみとするとの考え方の場合、人件費は含まれているのか。

#### <会長>

ZAFについて、実行委員会はずしコンシェルジュ、柴田氏やアーティストへの人件費は支払っているが、事務局の人件費は含まれていない。

#### <事務局>

アウトリーチ活動については、ホールの自主事業であるので、演者への実質経費のみ含まれ、担当者の人件費は含まれていない。

#### <長坂メンバー>

緊急財政対策に伴い財政的な支援ができなくても、事務局として支援していく場合に、事務局や担当者の人件費は経費として表に出ないのか。イベントにおいて事務局機能は不可欠であり、その人件費や諸経費は予算に反映されているのか。

#### <会長>

アウトリーチ活動の場合は、ホールの担当者の人件費となるだろうが、事業費の中には入っていないだろう。

#### <事務局>

ホールには、アウトリーチ活動だけでなく、全体的な管理及び運営として指定管理料を支払っており、按分するのは難しい。

#### <会長>

このような場合に、普通は按分しないと思われる。

メニュー数について、何か意見はあるか。

#### <田中メンバー>

文化協会に琴、三味線、尺八を演奏する逗子三曲会という団体があり、数十年前から小学校に教えに行っている。体験学習施設スマイル(以下「スマイル」という。)ができた際に、依頼を受けて教えに行き、初めは定員割れであったが、3年ほど前からコンスタント

に応募者が増加し、逗子市文化祭の時に演奏する子どもも出てきた。子どもは、小さい頃に体験すると何でも吸収する。伝統芸能については、出張して体験してもらうことで普及啓発に効果があるのではないか。

#### <藤城メンバー>

小中高生が伝統芸能を体験する機会は非常に少ないので、授業として強制的に体験するのも良い。また、スペースの問題もあるだろうが、保護者も興味があり、子どもとの会話の糸口にもなるため、保護者も一緒に観ることができれば、さらに良い。

#### <事務局>

保護者に対しての声掛けについては、ホールから学校にはお願いしているが、学校での調整が付かず、保護者への声掛けができていない。今回の推進会議で意見として挙がったので、教育委員会に改めて依頼したい。

#### <会長>

伝統芸能は瞬間芸術であるため、その場に居合わせないと本当の感動は味わえない。その時に保護者が一緒にいることで、子どもと保護者や保護者同士のコミュニケーションが広がる。「保護者」というのがキーワードではないかと思う。

#### <田中メンバー>

文化協会が小学校に対して行っている活動もアウトリーチ活動に当たると思われるが、今回の評価ではホールに来るアーティストが小中学校等に対して行うアウトリーチ活動のみ評価すると理解している。実際は、文化協会が行う活動もアウトリーチ活動だと思う。

#### <事務局>

子育て支援課の事業として文化協会に委託して、スマイルで実施している。

#### <田中メンバー>

文化協会は数十年前から小学校で雅楽を教えている。これは昔から行っているアウトリーチである。

#### <七海メンバー>

事業進行管理表に記載されているアウトリーチを実施したというのは、狭い範囲で達成したことだと思うが、行政や市民団体が実施しているアウトリーチが共存できるはずである。保護者と学校との調整が付かないと言っても、市民団体等がアウトリーチを実施したいと言えば、うまく繋がるかもしれない。これまで自由にアウトリーチ活動を実施している団体や機関と連携できれば、もう少し拡がりが出るのではないか。

#### <会長>

アウトリーチに関するグランドデザインがあれば、ホールや文化協会等が連携できるのかもしれない。

#### <事務局>

文化振興基本計画では、ホール指定管理者によるアウトリーチについて数値目標を定めているので、推進会議ではホール指定管理者によるアウトリーチについてのみ報告した。



確かに文化協会でもアウトリーチを実施しているので、今後は市全体としてどのように捉えるのか検討する必要がある。

#### <会長>

小中学校の話が出たが、福祉施設である高齢者センターや特別養護老人ホーム（以下「特養」という。）等でのアウトリーチはどうか。事業進行管理表には、調整が難しいと記入してあるが。

#### <事務局>

平成 29 年度は、新規のアウトリーチ先である子育て支援センターにおいて、初めて落語を実施した。親子で参加でき、子どもは赤ちゃんであるため理解はできないが、親への機会の提供として、あえて子育て支援センターで実施した。アンケートでも、大変評判は良かった。

福祉施設について、平成 28 年度は高齢者センターや特養で実施したが、平成 29 年度は子育て支援センターで実施するに留まった。子ども発達支援センター等でも調整していたようだが、子どもが何人集まれるか分からないため、実施できなかった。

福祉施設に関しては、平成 30 年度以降検討していきたいと聞いている。

#### <会長>

福祉施設へのアウトリーチで、高齢者を元気づけるという意味では、アートは効果的である。現在アウトリーチを実施しているのは、ホールに来るプロの人を想定しているが、例えば芸術活動を学ぶ学生や、飛躍したいと考える若手がアウトリーチを実施することで、自らのトレーニングになるし、自らの力を認めてもらう場にもなる。双方が win-win になるならば、積極的に小中学校でも福祉施設でも行くべきだと思う。

施設によって目的や効果は違うと思うが、それはアウトリーチのグランドデザイン化によってうまく区別できると考えられる。

#### <山口メンバー>

文化協会では、団体ごとに施設に行っているのではないか。

#### <田中メンバー>

今は実施していないが、以前はウクレレの会が毎週のように施設に行っていた。

#### <会長>

高度な芸術に幼い頃から触れることは、とても参考になる。能や音楽等、ジャンルを問わず、印象に残り、体に染みついてくるものだと思う。

メンバーの評価について、事務局の提案どおり「(a) 順調である」でよろしいか。

### 【異議なし】

#### <事務局>

資料 1 事業進行管理表（文化プラザホールの維持管理事業）について説明。

資料 1 及び参考資料 4 をご覧いただきたい。

#### <会長>

ホールの維持管理については、参考資料 4 の表を見ずとも、「(c) 順調であるとはみなせない」、あるいはそれ以下である。危険性を感じつつも、実施できていないのが現状である。人命に関わる事故が起きたら大変である。現状を打破する良い意見等はないか。

#### <長坂メンバー>

席数で収入金額は概算でき、どのようなパフォーマンスができるのかは一目瞭然である。なぎさホールは 555 席であり、キャパシティは限られている。555 席と言うと、逗子市の人口の約 1% であり、満席になるイベントは年間を通して少ない。

ホールの担当者は、より良いパフォーマンスを目指して、神経を尖らせて運営している。誰に対しても文化の発信拠点となることが彼らの目的である。ホールでは、外観を彩る植栽にも力を入れており、市民も気づいてほしい。

#### <会長>

維持管理は、結局金・人・技術である。また、建物はどんどん劣化していく。

#### <長坂メンバー>

ホールに限らず建物は次第に劣化し、修理しないと災害の時に危険である。ホールのホワイエは、災害時に帰宅困難者の避難場所となるため、毛布や食料を備蓄している。ホールの担当者は、ホールが市民に対して開かれた場所となるよう活動している。

#### <小谷メンバー>

ホールの維持管理は、指定管理者にお願いしているのではないのか。

#### <事務局>

基本的には市の事業であるが、100 万円以下の改修修繕は指定管理者にお願いしている。

#### <山口メンバー>

参考資料があり大変分かりやすい。中長期的改修計画はいつ頃策定されたのか。

#### <事務局>

指定管理制度の導入が平成 26 年度からであるため、平成 25 年度に策定された。平成 38 年度までの 12 年間で、中長期計画として策定した。

#### <山口メンバー>

積み残してある改修修繕が、何年度から積み残されているのかが分かるとなると良い。

#### <事務局>

ホールに限らず公共施設は老朽化が進んでおり、公共施設の今後の管理運営の方向性を示す総合管理計画を平成 29 年 3 月に策定している。平成 31 年度には、中長期的な計画である逗子市公共施設整備計画（以下「整備計画」という。）を策定する予定である。ただし、緊急財政対策に伴う見込みと実施の調整は検討事項である。

ホールの維持管理に関してはすでに中長期的改修計画があるが、平成 31 年度以降は整備

計画で内容を検討していくことになる予定である。

**<藤城メンバー>**

ホールの稼働率はどのようなものであるか。稼働率が上がり、貸館が増えれば、収入は増えるはずである。ホール単体で収入と支出を考えるのであれば、ホールの収入を上げて、増えた収入を改修修繕に回していけば良いと考える。

やはり、平日の稼働率は落ち込むのか。

**<事務局>**

土休日と比較すると平日の稼働率は落ち込むが、それでも昨年と比較すると稼働率は上昇している。

**<小谷メンバー>**

民間であれば、儲かった分を改修修繕に回すのは当たり前である。

**<黒川メンバー>**

指定管理の契約は、収入も含んでいる。ホールの稼働率が上がり収入が増えても、指定管理者の収入になるため、収入を見越して歳出予算を抑えている。

**<田中メンバー>**

高額な修繕費については指定管理者が負担しないので、参考資料4に記載されている積み残しの改修修繕については、市の予算が付かないと実施できない。安全面を優先した結果、優先度の低い改修修繕は予算が付いていないのではないかと。

**<会長>**

重要度がAであるのに、実施できていない改修修繕が数多くあるのは疑問である。

**<黒川メンバー>**

市全体として、建物の管理計画及び補修計画は策定している。しかし、計画があれど予算が付かないのが、一般的になっている。今後、市全体で新しく現実的な計画を策定する動きがある。

改修修繕を実施しないと安全面に関わる、もしくは運営がままならなくなる場合は、計画や予算に関わらず補正予算を組んで補修を実施するだろう。

**<小谷メンバー>**

ホールの稼働率が上がれば、予算が付く可能性も高まるのではないかと。

**<藤城メンバー>**

改修修繕がままならず、ホールの使い勝手が悪いという評判が広まると、利用者は敬遠してしまう。

**<会長>**

長期的な補修プランや優先順位等が記載されているマスタープランが作成されたら、推進会議に明示してほしい。

**<長坂メンバー>**

ホールは、平成26年から第1期指定管理、平成30年度から第2期指定管理となり、長

期的な展望を見て予算が割り振られている。第1期では40万円以下の改修修繕はホール負担であったが、第2期ではホール負担が100万円以下の改修修繕に引き上げられた。そこで、一つの改修修繕の定義は何かといった課題が出てくる。しかし、現状で危険な個所があれば、市や指定管理者が改修修繕できる仕組みはある。

稼働率について、細かい数字はすでに出ている。稼働率を上げるためのパフォーマンスを行うことは、指定管理者の使命である。そのためには、ホールのブランド力を高めることが必要である。ホールはZAFにも参画しているので、ZAFのブランド力が上がれば、ホールのブランド力も連携して上がるだろう。

#### <会長>

なぎさホールは、どの座席に座っても均等に聴こえる素晴らしいホールである。自主事業を行う際は、積極的にホールの良さをPRしてほしい。

#### <森川メンバー>

アーティストから、ホールは使いやすいとの声がある。

#### <事務局>

ホールの平成29年度稼働率は、なぎさホールが77.5%、さざなみホールが96.3%、ギャラリーが81.5%であり、いずれも前年を上回っている。稼働率が上がり、利用料収入が増えることで指定管理料が抑えられれば、市の財源に回され、その財源で改修修繕を実施できる可能性はある。

#### <長坂メンバー>

現在、日本の公共施設は指定管理がほとんどである。他市の例であるが、行政が指定管理に望むものは自立だそうである。自主事業を積極的に実施し、収入を増やすことが良いとされている。「自立」というのは、キーワードではないか。

#### <会長>

委員の評価について、事務局の提案どおり「(c) 順調であるとみなせない」でよろしいか。

### 【異議なし】

#### <事務局>

資料1 個別計画進行管理総括表について説明。

#### <会長>

審議会・懇話会等の意見については、事務局でまとめ、後ほどフィードバックしてもらえば良い。

#### <事務局>

本日いただいたご意見は、事務局でまとめた後、委員の皆さまに内容のご確認をお願い

する。皆さまのご確認の後、内容を確定する。

(2) 総合計画実施計画（取り組みの方向）、基幹計画「共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン」及び個別計画「逗子市文化振興基本計画」の見直しについて

<会長>

次に、議題2「総合計画実施計画（取り組みの方向）、基幹計画「共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン」及び個別計画「逗子市文化振興基本計画」の見直し」について。

詳細は事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料3のp45～p47をご覧ください。

総合計画実施計画の取り組みの方向にある「2 文化を新たに創造するまち」の記述において、計画策定から3年が経過した時点での現状を踏まえた見直しの必要の可否について、皆さまに意見をいただきたい。特に、災害等の発生や法令等の変更がある場合は、変更する必要があるかと思われるが、そのような外部要因が今回は見受けられないので、事務局としては見直しをせずに継続していきたいと考えている。

<会長>

意見・質問等はあるか。特になければ、このまま継続しても良いか。

**【異議なし】**

<事務局>

見直しはせずに、継続させていただく。

<事務局>

次に、資料3のp48～p50をご覧ください。

基幹計画「共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン」の「施策の方向」についても、計画策定から3年が経過したため、見直しの必要の可否について皆さまに意見をいただきたい。内容は、先ほど個別計画進行管理表において評価をいただいたところである。事務局としては、特に設定し直さなければならない箇所は見当たらないので、見直しをせずに継続していきたいと考えている。

<会長>

意見・質問等はあるか。

<会長>

計画事業費は、どこから引っ張ってきた数字であるのか。緊急財政対策のことを考えると、数字が変わるはずである。

<事務局>

平成 27 年度に計画が策定された時点で、見込んでいた数字である。

<会長>

今回の推進会議では、事業の選択を行うことで良いのか。

<事務局>

その通りである。引き続き 3 事業を基幹計画に位置付けることに関して、是非を伺いたい。

<田中メンバー>

p50（文化プラザホールの維持管理事業）の現況・課題では、「～、施設改修費用も高額のため、施設の改修・修繕も進みにくい状況にある。」とあるにも関わらず、目標は「中長期的改修計画に基づいた施設の改修工事を実施する。」とあるのは、矛盾している。しかし、今回は修正がきかないというのであれば、仕方がない。

<山口メンバー>

計画の策定時点で、施設の改修・修繕は難しいことが記載されているのであれば、来年度以降、難しい状況においても最低限の改修・修繕が行われていることを鑑みて、事業進行管理表の評価を（b）とすることも考えられる。

<長坂メンバー>

ZAF2017 のクロージングにおいて、市民協働部の方から「市民協働の形を見たような気がする」と伝えられた。市民協働で成し遂げたアートフェスティバルであったという感覚である。

市民協働を英訳すると collaboration であるそうで、ZAF は行政と市民がコラボしており、とても良い評価を与えたいと思う。

<会長>

現在は、行政におんぶにだっこという時代ではない。市民が自らやるという考えをもたないと、様々な部分が回らなくなってくると考えられる。その一つとして ZAF があり、推進会議もその一つとして捉えられるのではないか。

<七海メンバー>

p50（文化プラザホールの維持管理事業）の取り組みに、中長期的改修計画について記載されており、先ほどの事業進行管理表（文化プラザホールの維持管理事業）の文面では、「優先順位の高い工事から実施せざるを得ない」とあるが、「重要度の高い工事の中でも、優先順位の高い工事から実施せざるを得ない」としないと、虚しさが残る。

年度ごとの記載があっても良いと思われる。

<会長>

ガントチャートがあると、理解が進む。改修修繕の終期限や優先順位が分かる表がないと、理解ができないしモニタリングも捗らない。文章でのみ記載されると、受け入れざるを得ない。

<七海メンバー>

p50（文化プラザホールの維持管理事業）の取り組みに、「指定管理者に対し～」とあるが、これは年度の取り組みであると思われるので、その前に今年は予算の関係上、○本の改修修繕しかできないと記載するのはいかがか。

<会長>

玉虫色ではなく、リアルに表現した方が良いかと思われる。

<七海メンバー>

中長期的改修計画は、毎年ローリングすべきではないか。

<会長>

指定管理者の中長期的改修計画は、何年間にわたるものか。

<事務局>

整備計画との兼ね合いもある。

<小谷メンバー>

例えば、冷温水発生機については、減価償却の考え方で10年かけて投資していくとはならないのか。現在は、危険度が高いからこの改修修繕を実施するという点的な見方であるように思える。もっと線的に見て、この改修修繕のために何年間か貯める、順番に改修修繕を実施するのはいかがか。

<事務局>

現在、整備計画の策定に向けて動きがあり、全庁的な公共施設の洗い出しを行い、改修修繕のタイミングを調整していくことを予定している。平成31年度以降に完成する予定であるので、完成したら推進会議にも開示する。

<会長>

他に意見・質問等はあるか。特になければ、このまま継続しても良いか。

**【異議なし】**

<事務局>

見直しはせずに、継続させていただく。

<事務局>

次に、資料3のp30をご覧ください。

個別計画「逗子市文化振興基本計画」の「5. 事業計画」において、計画策定当初の目標で実施しても良いか、見直しの必要の可否について、皆さまに意見をいただきたい。

<会長>

意見・質問等はあるか。

<会長>

現在、事業計画どおりに実施されているのか。

<事務局>

先ほど、事業進行管理表において評価してもらったように、順調に進んでいると言える。ただし、「(3) 文化振興のための環境づくり」の「中長期的改修計画に基づく施設の修繕・改修の実施」については順調であるとはみなせないとの評価である。

「(4) 『(仮称) 逗子アーカイブス』の構築」については、後ほど説明する。

<会長>

差し当たり、(1)～(3)について、意見・質問はあるか。

「(3) 文化振興のための環境づくり」に「質の高い自主文化事業の継続と適正なモニタリング」とあるが、モニタリングとは定期的な監査という意味で良いのか。

<事務局>

モニタリングとは、ホール指定管理者に対して毎月行っているものである。

<会長>

p50（文化プラザホールの維持管理事業）の取り組みにあるモニタリングということか。モニタリングで何か問題点は出てきているのか。

<事務局>

モニタリング自体に問題はない。

モニタリングにおいて、指定管理者から様々な情報共有が図られ、改善に向けて検討している。

<長坂メンバー>

ホールの指定管理を任せるときに、逗子の文化の中心的な拠点となることをお願いしている。ホールの職員は大変貢献しており、市民に対してオープンな場所を提供しようとしている。例えば、ホール1階のガラスを開放して開かれた公共の場所を提供し、誰もが入りやすい、敷居の低い文化施設でありたいという前向きな考え方である。

そのため、個人的には先ほどの事業進行管理表（文化プラザホールの維持管理事業）の評価を優しくしたいとも考えている。

<会長>

指定管理者の所管課は文化スポーツ課で良いのか。

また、指定管理制度は何年度から導入されたのか。



<事務局>

所管課は文化スポーツ課であり、指定管理制度は平成 26 年度から導入されている。

<会長>

指定管理制度が導入されて、何が一番変わったか。

<事務局>

稼働率の向上や、自主文化事業が専門的な視点で選定され、質の向上が図られている。

<会長>

コストも相当下がっているのではないか。指定管理制度はコストカットがなされる一方で、サービスの質も落ちると聞いたが。

その点は、モニタリングを通してメッセージが出ているのか。

<事務局>

コストについてはモニタリングでは触れられていないが、行財政改革の一環で指定管理制度が導入されているので、コストカットにはつながっている。直営より人員を減らしていることもあり、年間 2,900 万円ほど削減されている。

<会長>

他に意見・質問等はあるか。特になければ、このまま継続しても良いか。

**【異議なし】**

<事務局>

見直しはせずに、継続させていただく。

(3) 「(仮称) 逗子アーカイブス」の推進について

<会長>

次に、議題 3 「(仮称) 逗子アーカイブス」の推進について。

平成 29 年 2 月 7 日 (火) に、平井市長に対して推進会議での検討内容を報告した。詳細は事務局から説明をお願いする。

<事務局>

平成 29 年 2 月に、「(仮称) 逗子アーカイブス」の方向性について、会長から市長に対して、推進会議での検討内容を報告した。「(仮称) 逗子アーカイブス」として、どのような文書を対象とするか、整理の方法、推進の方法等、要望という形で提出をした。市としては、まずは「逗子フォト」事業を立ち上げて、それを実施していく。

平成 29 年度第 2 回の推進会議において説明したが、「逗子フォト」事業は平成 30 年 1 月にホームページが立ち上がり、広報ずし 1 月号にも内容が掲載された。市が所有している

7,000枚以上の昔の写真を、ホームページ上で管理（デジタルアーカイブス化）し、情報発信につなげる予定である。平成29年12月時点では200枚程度であった写真が、現在は500枚程度がホームページ上で管理されている。しかし、未だ7,000枚以上の写真が管理できていない状況である。市で呼び掛けたところ、市民から3件程度写真の提供があった。

予算もなく、限られた人員で対応しており、進捗は捗々しくない。また、古い写真の時代背景が分かりづらいといった問題もある。写真の整理については、今後推進会議のメンバーにも協力してもらいたい。

#### <会長>

「逗子フォト」事業の所管課はどこか。

#### <事務局>

企画課広聴広報係である。

#### <会長>

写真を保管している人が高齢化していき、保管していた方が亡くなると、家族が破棄してしまう可能性もある。古い写真については、早めに動かないと埋もれていく懸念がある。

個人的には焦っているのだが、文化振興基本計画から見ると「(仮称)逗子アーカイブス」の構築は平成32年度である。「逗子フォト」事業という形にはなっているので、一定の評価はできるが、皆さまから積極的に発信してもらいたい。また、「アーカイブス」というキーワードで他の市町村で見聞きした意見を、ぜひ次の推進会議でフィードバックしてもらいたい。

#### (4) その他

#### <会長>

続きまして、議題4「その他」について、4月14日（土）に開催された「まちづくりネットワーク会議」の報告を、長坂メンバーと山口メンバーにお願いしたい。

#### <山口メンバー>

平成27年度に開始された「まちづくりネットワーク会議」は、今回で7回目になる。私（山口メンバー）は3回目、長坂メンバーは初めての参加である。同会議は市長が招集し、企画課が事務局を担当している。逗子市総合計画の個別計画・基幹計画等の市民委員や住民自治協議会（以下「協議会」という。）のメンバーが、横のつながりを意識し、広く情報共有、意見交換等を行うことを目的に年2回開催されている。総合計画では「市民の横断的ネットワーク会議」としていたが、「まちづくりネットワーク会議」が正式名称となった。前回同様、基本計画ごとに関連する懇話会等がグループを構成する配置となっていた。

初めに、平井市長から「平成30年度の施政方針、予算等について」レジュメに基づき説明がなされた。3つのプロジェクト、4つの重要課題につき説明があり、今後の方向性に

についても言及がなされたことは前回の説明より全体像が理解しやすかった。

次に、各協議会から平成 29 年度活動実績の概要について報告があった。小学校区ごとに協議会発足を目指しているが、逗子小学校区は未発足である。沼間、小坪、池子、久木より概要書に基づき報告がなされた。

#### <長坂メンバー>

小坪地区の防犯部会の特徴的取組みである地域防犯と、小坪小学校児童下校時のわんわんパトロールは考えた以上に結果が出たと報告があり、市長も評価し他の地域にも広がる可能性が感じられる。

#### <山口メンバー>

逗子小学校区は自治会組織が逗子、桜山、新宿の 3 つに分かれており逗子小学校区として 1 つの協議会を発足させることは難しく思う。

最後に、逗子市自治基本条例ワークショップ「逗子の未来協議会」、第 1 ステージ終了の報告・説明があった。平成 28 年 8 月にスタートし平成 30 年 4 月に最終回、第 16 回が開催された。ワークショップ参加者は無作為抽出された 2,000 人から応募した市民と協議会から推薦された市民である。各回のレポートは逗子市ホームページに開示されている。第 2 ステージは第 1 ステージ検討案を元に、広く市民全般に向けた周知・理解促進の活動と案のブラッシュアップを行う。

#### <会長>

他に質問・意見等のある方はいるか。

### 3 閉 会

#### <事務局>

以上で「平成 30 年度第 1 回逗子市文化振興基本計画策定・推進会議」を終了する。

◇◇◇終了◇◇◇